

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## 課題解決は「地域を知る」ところから

クレアでの3年間は、国内外のさまざまな自治体の方と話す中で、ほかの自治体が何を課題として、どう対応しようとしているのかを学ぶ貴重な体験の宝庫でした。

### ピザを持って地域に飛び込め!

クレアロンドン事務所では、研修などで英国の自治体の方にお話を伺う機会も多くありましたが、移民や福祉など、異なる課題を抱える自治体の方も、「相手の話、地域住民の話をよく聞くこと」を課題解決の第一歩としていました。「地域のことを知るには、ピザを持ち込んでおしゃべりすればいい」とはロンドンの自治体幹部の方が冗談交じりでおっしゃっていた言葉ですが、自治体の仕事を固く考えがちな私にとっては目から鱗でした。

休日には、研修で知り合った方の地元に遊びに行く機会もあり、住民目線で街づくりや地域活性化の試みを案内していただきました。一緒に買い物や食事をして、「街づくり」が実際の生活にどう溶け込んでいるかを利用者として体験できたのも良い思い出です。

日本と英国では、自治体業務の範囲や行政制度など、異なる点が多く、日本の自治体が英国の成功事例をその



地元の方に案内していただいた、コンテナを活用した地域コミュニティスペース（ロンドン市“Pop Brixton”）

**福島県生活環境部国際課 副主査 渡邊 美里**  
まま取り入れることは難しいと感じることも多々ありましたが、課題との向き合い方や考え方については、たくさん気づきをいただきました。クレアでの勤務を通し、物事を考えるうえでの自身の土台が広がったと感じています。

### 「現場感」を大切に

さて、ここからは現在勤務している県国際課の取り組みを2つご紹介します。方向性は違いますが、どちらも現地に足を運び、地域の方の話を聞いて実施している事業です。

#### ■外国人住民向け新型コロナウイルス相談ホットライン

留学生や技能実習生と関わる学校・企業などへの聞き取りを元に、電話回線を契約していない方でも利用いただけるよう、電話およびLINE通話による無料での多言語相談サービスを提供しています。

#### ■国際交流員による情報発信事業“Fukushima Today”

国際交流員が県内各地に取材し、彼ら自身の目線で発見した本県の魅力や人々の暮らし、そして震災から復興する福島の姿をSNSで国内外に発信しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005e/fukushima-today.html>

自治体職員として、これからもさまざまな課題に取り組んでいくこととなりますが、クレア勤務での気づきである、「課題とその解決にはまず地域に飛び込むこと」を忘れず、柔軟な考え方で向き合っていきたいと思います。

#### プロフィール・ほか

- 現職：福島県生活環境部国際課 副主査
- クレア時代の所属：  
2016年4月～2017年3月  
クレア東京本部 JET プログラム事業部  
2017年4月～2019年3月 クレアロンドン事務所